批判的思考態度と幸福感，ハーディネスの関連の世代間比較

○沖林洋平

(¹ 山口大学教育学部)

キーワード：批判的思考態度，幸福感，世代間比較

Relationship between critical thinking disposition, feeling of happiness, hardiness by generational comparison

Yohei OKIBAYASHI¹

(¹ Faculty of Education, Yamaguchi Univ.)

Key Words: Critical thinking disposition, Feeling of happiness, Generational comparison

問 題

批判的思考は、「論理的・合理的思考であり，規準(Criteria)に従う思考である(楠見, 2011)」と定義される。批判的思考は，不確かな情報に惑わされることなく，あるいは，自らの信念バイアスに影響を受けることなく意思決定や判断を行うためには不可欠な思考であるだろう。一方で，批判的思考が高いものは情動知能が高いものに比べて，個人的な親しみやすさは低いイメージを与えるという知見もある(廣岡ら，2000)。これに関連して，本研究では，批判的思考態度と主観的幸福感，ハーディネス，抑うつとの関係を検討することとした。また，大学生と40代の世代間比較を行うことにより，成人期の批判的思考態度の構造について検討した。

方 法

大学生の調査対象者 地方国立大学の大学生 347 名(男性 149 名，女性 194 名，性別不明 4 名)に調査紙を配布し，回答を求めた。この内，欠損値のみられた 9 名の回答を除き，338 名(男性 147 名，女性 191 名；平均年齢 19.64, SD=1.05)を分析対象者とした。

40 代の調査対象者 40 代の成人 566 人(男性 280 人，女性 283 人；平均年齢 44.55 歳，SD=2.85)に対し，インターネット調査を実施した。

調査期間 2011 年 12 月 16 日～22 日。回答時間は講義時間内の約 15 分間を用いた。

調査項目 作成した調査紙には以下の尺度項目を用いた。

1. 批判的思考態度尺度(平山・楠見, 2004) 自分の推論過程を意識的に吟味する反省的な思考」である批判的思考に必要とされる態度であり，「論理的思考への自覚」，「探究心」，「客観性」，「証拠の重視」の 4 因子構造である。全 18 項目を用いて 5 件法で評定させた。

2. 人生の満足度(SWLS)(Diener et al., 1985; 大石訳, 2009)個人

の主観的幸福度の指標として用いた。1 因子構造の全 5 項目を 7 件法(1「全く当てはまらない」～7「非常によく当てはまる」)で評定させた。

3. ハーディネス尺度(多田・濱野, 2003) 多田・石原・濱野(2001)が Kobasa(1979)のハーディネス概念に基づいて開発したハーディネス尺度(25 項目)の改良版である全 15 項目を用いて 5 件法(1「当てはまらない」～5「当てはまる」)で回答を求めた。「コミットメント(人生のさまざまな状況に対して自分を十分に関与させる傾向)」，「コントロール(個人が出来事の推移に対してある一定の範囲内で影響を及ぼすことができると信じ，かつそのように行動する傾向)」，「チャレンジ(安定性よりもむしろ変化が人生の標準であり，成長の機会であると捉える傾向)」各 5 項目の 3 因子構造とされる。

4. ベック抑うつ尺度(林・瀧本, 1991) Beck ら(1961; 1979)によって開発された抑うつ尺度(Beck Depression Inventory: BDI)の日本語版全 21 項目を用いた。調査協力者の最近(調査日を含む過去 1 週間)の状態についてたずねるものであり，1 項目につき 4 つの文章の内最もあてはまる文章を選択し，選択した文章の番号(0～3)に丸を記入させた。選択した番号を合計した数を抑うつ反応得点とし，数値が高いほど抑うつ反応の程度が高いことを表わす。

結果と考察

各変数を用いて構造方程式モデリングを行った。大学生を対象とした分析結果を Figure1 に，40 代を対象とした分析結果を Figure2 に示した。各モデルともに，適合度は十分に高いものであった(Figure1 の GFI=.994, CFI=1.000, RMSEA=.001 Figure2 の GFI=.998, CFI=1.000, RNSEA=0.000)。今後は，本研究や関連する研究の結果を踏まえて，その他の要因との関連も検討したい。

Figure1 大学生の分析結果

Figure2 40 代の分析結果